



## アップグレード

---

ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco Crosswork アプリケーションのアップグレード \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Crosswork 4.0 への移行 \(3 ページ\)](#)

## Cisco Crosswork アプリケーションのアップグレード

この項では、Crosswork GUI から Crosswork アプリケーションをアップグレードする方法について説明します。

作業を開始する前に、次を確認してください。

- 重要なアップグレードを行う前に、データのバックアップを作成します (バックアップ/復元機能を使用)。
- [cisco.com](http://cisco.com) からローカルコンピュータに Crosswork アプリケーションファイル (CAPP) の最新バージョンをダウンロードします。



---

(注) Crosswork は、CAPP ファイルのダウングレード操作をサポートしていません。ただし、アプリケーションを古いバージョンに戻す場合は、アプリケーションをアンインストールして、古いバージョンのアプリケーションをインストールします。ダウングレードの場合は、操作の前にデータのバックアップを作成することを推奨します。

---

**ステップ 1** [管理 (Administration)] > [Crosswork の管理 (Crosswork Management)] をクリックし、[アプリケーション管理 (Application Management)] タブを選択します。

Crosswork プラットフォーム インフラストラクチャと追加されたアプリケーションは、ここにタイルとして表示されます。

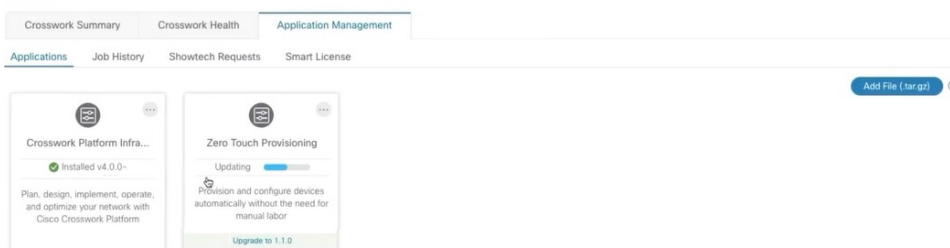
**ステップ 2** [ファイルの追加 (.tar.gz) (Add File (.tar.gz))] オプションをクリックして、ダウンロードしたアプリケーション CAPP ファイルを追加します。

**ステップ3** [ファイルの追加 (Add File)] ダイアログボックスで、該当する情報を入力し、[追加 (Add)] をクリックします。

CAPP ファイルを追加すると、既存のアプリケーションタイトル (この例では [ゼロタッチプロビジョニング (Zero Touch Provisioning)]) にアップグレードプロンプトが表示されます。

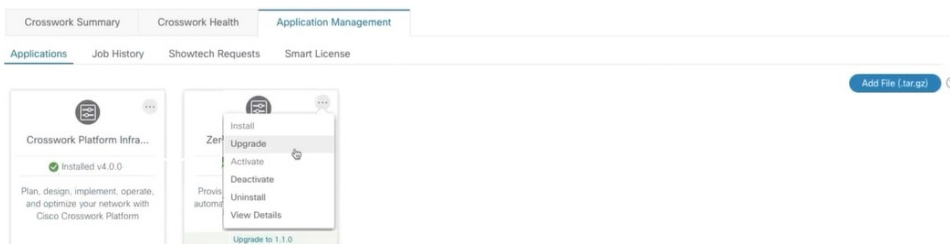


**ステップ4** アップグレードする場合は、[アップグレード (Upgrade)] プロンプトをクリックすると、アプリケーションの新しいバージョンがインストールされます。

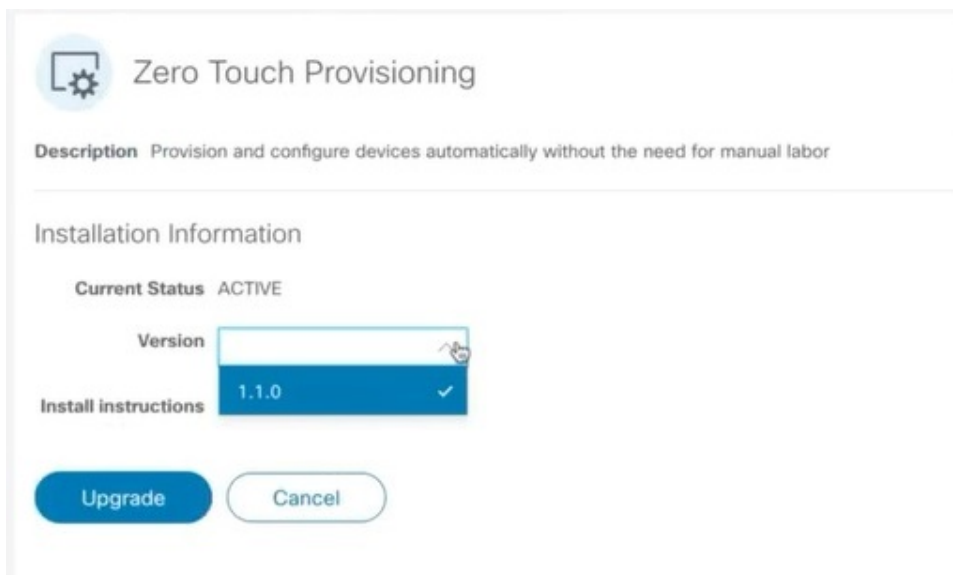


アップグレードの進行状況がアプリケーションタイトルに表示されます。

**ステップ5** または、タイトルの [...] をクリックし、ドロップダウンリストから [アップグレード (Upgrade)] オプションを選択します。



[アップグレード (Upgrade)] 画面で、アップグレードする新しいバージョンを選択し、[アップグレード (Upgrade)] をクリックします。



**ステップ 6** (オプション) [ジョブ履歴 (Job History)] をクリックして、アップグレード操作の進行状況を確認します。

- (注) アップグレード操作では、通常、既存の CAPP ファイルと新しい CAPP ファイルの間で変更されたコンポーネントのみがインストールされます。これは、新しいバージョンが古いバージョンのリソースのほとんどを引き続き使用する可能性があるためです。これにより、現在のシステムとセッションを中断することなく迅速に操作を実行できます。
- (注) アップグレード時は、更新が完了するまで更新中のアプリケーションは使用できません。この間、アプリケーションを使用している他のユーザには、アップグレードに関するアラームが通知されます。

## Cisco Crosswork 4.0 への移行

Cisco Crosswork バックアップ機能を使用して、Cisco Crosswork の以前のバージョンからバージョン 4.0 にデータを移行します。必要なのは、以前のバージョンのバックアップファイルだけです。

データを Cisco Crosswork 4.0 に移行する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- 移行シェルスクリプトは、Cisco Crosswork Change Automation and Health Insights 3.2.2 または Cisco Crosswork Optimization Engine 1.2.1 から Cisco Crosswork 4.0 へのデータ移行のみをサポートしています。どのバージョンであっても、Cisco Crosswork Network Controller からの移行には使用できません。
- また、Change Automation and Health Insights 3.2.2 と Optimization Engine 1.2.1 の両方を移行することもできません。これらは2つの異なるバックアップであり、マージできません。

- このスクリプトは、Cisco Crosswork バージョン 4.0 へのインプレースアップグレードをサポートしていません。まず、Cisco Crosswork バージョン 4.0 をインストールします。また、使用する Cisco Crosswork アプリケーションの最新バージョンもインストールする必要があります。たとえば、Cisco Crosswork Optimization Engine 1.2.1 を Cisco Crosswork 4.0 に移行するには、まず Cisco Optimization Engine 2.0 を 4.0 クラスタにインストールしておく必要があります。その後、データを移行できます。

作業を開始する前に、次を確認してください。

- Cisco Crosswork 4.0 の cw-admin パスワードを所有している。
- データの移行先である、展開された Cisco Crosswork 4.0 メインノード上のすべてのアプリケーションサービスが稼働しており、正常である。メインメニューの **[管理 (Administration)]** > **[Crosswork Manager]** > **[Crosswork 正常性 (Crosswork Health)]** を選択して、メインノードのサービスのステータスを確認できます。いずれかのサービスがダウンしているか、または低下している場合でも、スクリプトの「force」フラグ (-force) を使用すると、これらの問題を無視し、移行を実行します。

**ステップ 1** 以前のバージョンの Cisco Crosswork のデータのバックアップを作成します。

- a) **[バックアップ (Backup)]** をクリックします。**[バックアップ (Backup)]** ダイアログボックスに、接続先サーバの詳細が表示されます。
- b) **[ジョブ名 (Job Name)]** フィールドに、バックアップに該当する名前を入力します。この手順の後半で必要になるため、このファイル名とリモートファイルパスを記録します。
- c) (オプション) **[バックアップの確認 (Verify Backup)]** をクリックして、Cisco Crosswork にバックアップを完了するのに十分な空きリソースがあることを確認します。確認が成功すると、時間のかかる操作の性質に関する警告メッセージが Cisco Crosswork に表示されます。**[OK]** をクリックします。
- d) **[バックアップの開始 (Start Backup)]** をクリックして、バックアップ操作を開始します。Cisco Crosswork は、バックアップジョブセットを作成し、それをジョブリストに追加します。

**ステップ 2** Cisco Crosswork の以前の展開がまだ実行中の場合は、以前のバージョンの Data Gateway インスタンスからすべての管理対象デバイスを切断します。

- a) メインメニューから、**[管理者 (Admin)]** > **[Data Gateway の管理 (Data Gateway Management)]** を選択します。
- b) デバイスが接続されている Cisco Crosswork Data Gateway インスタンスを選択します。
- c) **[デバイスの切断 (Detach Devices)]** をクリックします。
- d) **[すべてのデバイスの切断 (Detach All Devices)]** をクリックします。
- e) 複数の Cisco Crosswork Data Gateway インスタンスを使用している場合は、これらの手順を繰り返します。

**ステップ 3** 以前のバージョンをホストしている Cisco Crosswork Data Gateway の VM を削除します。

- a) Data Gateway の VM をホストしている VMware vSphere Web クライアントにログインします。
- b) **[ナビゲータ (Navigator)]** ペインで、削除する Data Gateway の VM を右クリックし、**[電源 (Power)]** > **[電源オフ (Power Off)]** を選択します。

- c) VM の電源をオフにしたら、VM を再度右クリックし、[ディスクから削除 (Delete from Disk)] を選択します。

**ステップ 4** Cisco Crosswork のバージョン 4.0 を展開します。展開には、Cisco Crosswork 4.0 プラットフォーム、Cisco Crosswork Data Gateway、クラスタノード、および移行するデータを含む Cisco Crosswork アプリケーション (Change Automation and Health Insights か Optimization Engine) が含まれている必要があります。

**ステップ 5** 以前のバージョンのバックアップに使用したものと同一セキュア SCP サーバを使用するように Cisco Crosswork のバージョン 4.0 を設定します。

- a) メインメニューから、[管理 (Administration)] > [バックアップと復元 (Backup and Restore)] を選択します。
- b) [接続先 (Destination)] をクリックして、[接続先の編集 (Edit Destination)] ダイアログボックスを表示します。以前に使用した SCP サーバの詳細を入力します。
- c) [保存 (Save)] をクリックして、バックアップサーバの詳細を確認します。

**ステップ 6** SSH を使用して Cisco Crosswork の管理 VIP にログインします。root 権限を想定し、次のように移行シェルスクリプトを含むフォルダに変更します。

```
$> ssh cw-admin@CrossworkHost
Password: password
Cisco Crosswork
$>cw-admin@CrossworkHost:~$ sudo su
[sudo] password for cw-admin: sudo password
root@CrossworkHost: cd /opt/robot/bin
```

ここで、

- *CrossworkHost* はサーバの IP アドレスまたはホスト名です。
- *password* は、サーバの展開時に作成された Cisco Crosswork cw-admin パスワードです。
- *sudo password* はサーバのルートパスワードです。sudo パスワードは通常、cw-admin パスワードと同じです。

**ステップ 7** 次のように、Cisco Crosswork 4.0 展開へのバックアップデータの移行を開始します。

```
root@CrossworkHost: ./migration.sh -i CrossworkIP -u username -p password -n backupFile -f false|true
```

ここで、

- *CrossworkIP* は、展開された Cisco Crosswork 4.0 クラスターのメインノードの IP アドレスです。たとえば、*-i 192.168.1.1* などです。
- *username* は、クラスターに登録されている非管理ユーザのユーザ名です。このスクリプトは、移行ジョブを非管理ジョブとして送信します。たとえば、*-u UserTom* などです。
- *password* は、登録ユーザのパスワードです。たとえば、*-p MyPassword* では移行を強制します。
- *backupFile* は、バックアップのファイル名です。たとえば、*-n My332BackUp.tar.gz* の場合、Cisco Crosswork は設定された FTP バックアップサーバにこのファイルがあることを前提としています。
- *force* は、システムサービスの正常性ステータスを無視するかどうかを示すブールフラグです。たとえば、*-f true* を指定すると、移行が強制されます。

移行スクリプトがデータ転送を開始します。移行にかかる時間は、使用可能なハードウェアリソースと移行するデータの量によって異なります。

---